

普通期水稻の収穫期について

J A 福岡京築
京築普及指導センター

梅雨明け後は、高温多日照で推移しています。出穂期は、昨年と同程度となっています。以下に8月11日までのアメダスの平均気温データをもとに、収穫期の予想をしていますので、これを参考に今後の作業計画を立てて下さい。

1 収穫期予想

品種・田植日		出穂期及び出穂期予想	収穫期(予想)	出穂後積算気温(°C)	出穂後日数
夢つくし	6月 1日	8月5日	9月6日～14日	850 ～ 1050 (<u>籾水分28～24%</u>)	31～39日
	6月15日	8月13日	9月16日～24日		34～42日
	6月22日	8月20日	9月24日～10月3日		35～44日
元気つくし	6月12日	8月15日	9月21日～27日	900 ～ 1050 (<u>籾水分28～23%</u>)	37～43日
	6月15日	8月19日	9月26日～10月2日		38～44日
	6月26日	8月28日	10月5日～10月15日		38～48日
ヒノヒカリ	6月10日	8月20日	9月29日～10月3日	900 ～ 1050 (<u>籾水分28～22%</u>)	40～44日
	6月15日	8月23日	10月3日～10月8日		41～46日
	6月22日	8月27日	10月8日～10月14日		42～48日

(出穂期後積算気温による予測、8月17日以降は行橋アメダスの平年値使用)

※今後の平均気温が平年より高いと収穫時期は、早くなります。

- ・出穂期とは、全茎数の4～5割が出穂した(止葉の葉鞘から穂の先端が現れた)時。
- ・ほ場での収穫開始の目安は、総籾数の70～80%が黄化したときです(倒伏無の場合)。刈り遅れになると胴割れの発生など品質が低下しますので、刈り遅れないようにしましょう。
- ・出穂期や収穫時期は、栽培地帯、移植時期、移植苗の葉齢、ほ場条件、肥培管理、生育量、天候等で異なります。 上記の表を目安として利用して下さい。

2 病虫害防除

本年は、山間部で葉いもち病の発生が多くみられたので、穂いもち病への移行に注意が必要です。

トビイロウンカの発生は平年より少ないですが、元気つくし以降の熟期の品種では今後の発生に注意しましょう。

＜基幹防除 必ず散布＞穂揃期(穂いもち、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類)

ノンブラストレパリダ粉剤DL …… 4kg/10a 収穫14日前まで

<補正防除>

対象病害	農薬名	10a当たり使用量	使用時期
ウンカ・カメシ類	キラップ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで
ウンカ類	77°ロードバッサ粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで

農薬は、散布量や使用上の注意をラベル等で確認し、周辺地域や他作物へ飛散しないように十分注意しましょう。

3 水管理

間断灌水を実施し、根の活力維持に努めましょう。

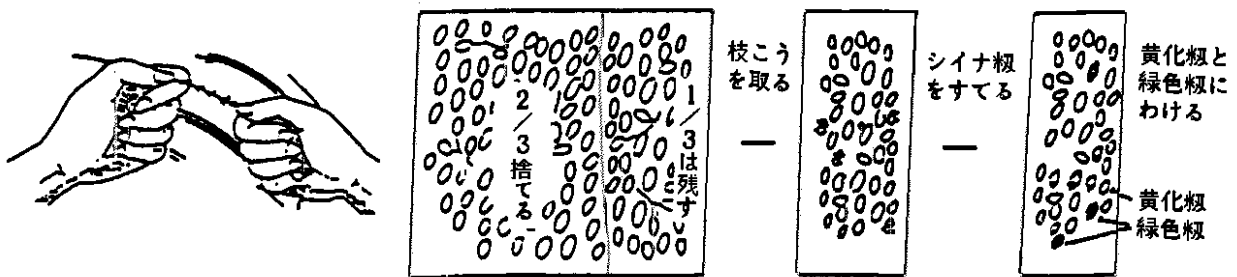
長雨のため中干しが不十分なほ場が多くなっています。出穂前後10日間は稲が最も水を必要とする時期ですので、浅水管理としてこの時期の無理な中干しは避けてください。今後は、強めの間断かん水で徐々に土壌を硬くしてください。

水利やほ場条件、天候にもよりますが、落水時期は収穫1週間前を基準にできるだけ遅くしましょう。

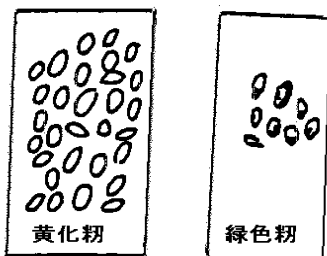
台風時は、収穫間際を除き深水管理をしてください。

《黄褐色籾割合による収穫適期の判定》

- ① 田から平均的な穂を3穂取り、手ですごく。
- ② 紙や手のひらの上でよく混ぜて1/3だけ残す。



- ③ 黄化籾と緑色籾の割合をだす。



(測定例)

黄化籾(A)	緑色籾(B)	黄化籾割合
49粒	21粒	→ 70%
75	25	→ 75
65	15	→ 81

4 乾燥

《ヤケ米防止》

- ・ 収穫した籾の水分が高い時は、その都度、乾燥機に入れて通風しましょう。
- ・ 籾水分24%以上は、脱穀後4時間以内（できれば2～3時間）に乾燥、または通風し始めましょう。
- ・ 乾燥機についている水分検定器は、誤差を修正しておきましょう。
- ・ 取扱説明書に従い、乾燥を行って下さい。

5 調製

- ・ 籾すり直前に水分を測定し、水分が多い籾は籾すりをしないで、再度乾燥させましょう。
- ・ 玄米の仕上げ水分は15%です。
 - ・ 籾温が高いと肌ずれしやすいので、乾燥直後の籾摺は行わないようにしましょう。
 - ・ 肌ずれ米や籾・しいなが混入しないように注意しましょう。
- ・ 玄米の選別は1.85mmです。

元気つくしの中後期管理

2016年7月29日
京築普及指導センター
J A 福岡 京築

1. はじめに

現在の水稻の生育は、平年に比べ高温状態で推移したことからやや早くなっています。いもち病も一部で見られますので、ほ場の見回りを行い早期防除の対応をお願いします。

2. 水管理について

中干しを実施していない圃場では、1株当たり20~25本程度茎数が確保され次第中干しを開始してください。強い中干しは根を痛めるため、田面に小さい亀裂が入る程度で行いましょう。また、中干し終了後は間断かん水を行い、根の活力維持に努めましょう。

3 穂肥

出穂期は平年よりやや早いと予想されますが、幼穂長を確認して穂肥を施用しましょう。葉色の低下が見られない場合は、穂肥時期を遅らせて（下記目安の1週間程度後）穂肥量も半分を目安として施用してください。また、葉いもちが多発したほ場も穂肥をひかえてください。

平年の出穂期からの穂肥時期の目安

移植時期	出穂期の 予想	穂肥時 幼穂長	穂肥時期
6月10日	8月15日頃	5~10mm	7月29日~8月1日頃
6月15日	8月18日頃		7月31~8月3日頃
6月22日	8月22日頃		8月4~7日頃

※あくまで、標準的なほ場での予想ですので、必ずほ場で幼穂長を確認して下さい。ほ場の葉色、地力により施用時期、施肥量は調整して下さい。

4. 病害虫防除

いもち病の発生が多い圃場は、補正防除を行ってください。また、穂揃い期に基幹防除を必ず実施してください。

その他の病害虫の発生は特に目立ちませんが、穂揃い期防除後にウンカ・カメムシの発生が多い場合は、防除の7~10日後に補正防除を行いましょう。カメムシは侵入源である畦畔や休耕田などの除草対策を出穂前に徹底しましょう。

<基幹防除> (穂いもち、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類)

ノンブラストレバリダ粉剤DL ……3~4kg/10a 収穫14日前まで

<補正防除>

対象病害	農薬名	10a当たり使用量	使用時期等	備考
いもち病	ブラシン粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで	
	コラトップジャンボ	500g	出穂5日前まで	湛水散布
ウンカ・カメムシ類	キラップ粉剤DL	3~4kg	収穫14日前まで	

除草剤・農薬は、散布量や使用上の注意をラベル等で確認し、周辺地域や他作物へ飛散しないように十分注意しましょう。

早期・早植え水稻の収穫期について

J A 福岡京築
京築普及指導センター

平年に比べ気温が高く推移したことから、出穂期は昨年より2日程度早くなっています。
以下に、7月27日までの行橋アメダスの平均気温データをもとに早期水稻の収穫期の予想をしていますので、これを参考に今後の収穫作業等の計画を立ててください。

1 収穫期予想

品種・田植日		出穂期	収穫期 (予想)	出穂期後 積算気温(°C)
コシヒカリ	4月20日	7月14日	8月15~22日	860 ~ 1050
	4月27日	7月17日	8月18~25日	
夢つくし	4月20日	7月17日	8月18~25日	850 ~ 1050
	4月27日	7月20日	8月21~28日	
	5月4日	7月24日	8月25日~9月1日	
	5月11日	7月26日	8月27日~9月3日	
	5月18日	7月30日	9月1日~9月8日	
	5月25日	8月2日	9月4日~9月11日	

平均的なほ場での出穂期です。

(出穂期後積算気温による予測、7月28日以降は行橋のアメダスの平年値使用)

※今後の平均気温が平年より1°C高いと収穫時期は、1日程度早くなります。

出穂期とは、全茎数の4~5割が出穂した(止葉の葉鞘から穂の先端が現れた)時。
ほ場での収穫開始の目安は、総籾数の70~80%が黄化した(籾水分28~24%)ときです(倒伏無の場合)。刈り遅れになると胴割れの発生など品質が低下しますので、刈り遅れないようにしましょう。

出穂期や収穫時期は、移植時期、移植苗の葉齢、ほ場条件、肥培管理、生育量、天候等で異なります。上記の表は目安として利用して下さい。

2 落水期(※早くても収穫1週間前から)

水利やほ場の条件、天候にもよりますが、落水はできるだけ遅くしましょう。

(落水が早すぎると充実不足や登熟不良となったり、胴割れ等の原因となります。)

3 病虫害防除

葉いもちの発生が多く見られるほ場は、穂揃期に基幹防除を必ず実施して下さい。
その他の病虫害の発生は特に目立ちませんが、穂揃期防除後にウンカ・カメムシの発生が多い場合は、防除の7~10日後に補正防除を行きましょう。

<基幹防除> (穂いもち、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類)

ノンブラストレパリダ粉剤DL・・・・・・3~4kg/10a (収穫14日前まで)

<補正防除> カメムシ類、ウンカ類

キラップ粉剤DL・・・・・・3~4kg/10a (収穫14日前まで)

農薬散布は、散布量や使用上の注意をラベル等で確認し、
周辺地域や他作物へ飛散しないように十分注意しましょう。

水稲の「いもち病」対策

平成28年7月4日
京築普及指導センター
J A 福岡 京築

6月4日の梅雨入り以降、時折まとまった降雨があり、日照時間が少ない状況が続いています。長雨も予想されますので、いもち病などの病害虫発生状況に十分注意してください。

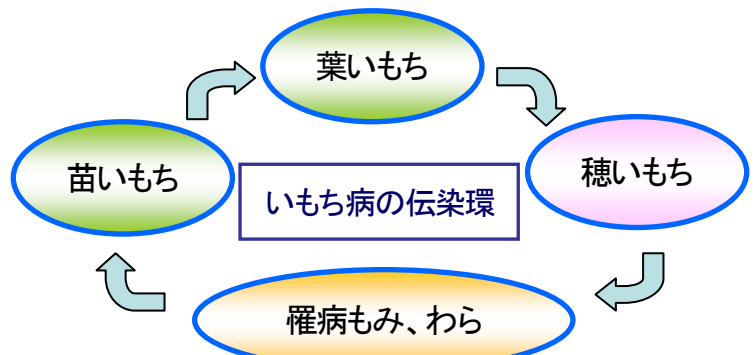
《イネいもち病対策について》

昨年は、7月以降葉いもちが多発しました。今後の天候次第では、急激に広がる可能性があるため、以下の点に注意して、いもち病の発生が見られたら、直ちに防除を行いましょう。

1 いもち病の生態

いもち病の伝染環は右図のとおりで、罹病もみから伝染し、感染苗を経て本田に持ち込まれ、本田での伝染源となります。苗での発病が認められない場合もありますので、苗いもちの発生がなくても安心はできません。

いもち病菌は、大量の胞子を形成して、1kmの広範囲に飛散します。葉いもちが発生した場合、早期に防除を行うことが極めて重要で、葉いもちの早期防除が穂いもちの抑制につながります。



2 対策

- (1) 置き苗（補植用苗）は主な伝染源ですので、直ちに除去してください。
苗は畦畔など水田の近くに置かず、水田から離れたところに持って行って捨ててください。
- (2) ほ場を定期的に巡回し、葉いもちの発生がみられたら、拡大する前に速やかに防除を行ってください。
- (3) 多肥栽培を避け、葉いもち多発時には穂肥を半量に減じ、激発時には穂肥の施用を中止してください。

3 薬剤防除法

- (1) 葉いもちに対する薬剤の防除効果は、発生初期は高いですが、散布時期が遅くなるほど低くなるので、発生が確認されたら直ちに防除を行いましょう。
- (2) 穂いもちは予防散布が重要で、出穂直前が防除適期です。いもち病常発地や降雨のため粉剤や液剤の散布が困難な場合には、粒剤を適切に散布して下さい。
(薬剤については、JA各アグリセンターに問い合わせください。)

《その他害虫の発生状況について》

セジロウンカは平年よりやや多、トビイロウンカは平年並みの発生量が予想されています。今後の発生状況には注意してください。